

天主閣

だより



マキキ聖城キリスト教会

「祈り」に思う その三

藤浪 義孝牧師

故郷は秋の季節、外は涼しく運動しやすく、城下町の街路はイチョウのきれいな葉と山は赤く染まり始めます。ここハワイは鮮やかな紅葉の木々の匂いはありませんが、心地よい貿易風に天候が安定し、ビーチで過ごしやすく一年中で最も心落ち着く爽やかな季節です。しかし、感傷的になりやすい時節とも言われています。景気後退への警戒感で先行きが見えにくい年末年始の備えのためにも今年の秋は、心と身体を調整するために大切な季節だと思えます。

ある日、ナザレのイエスがさまざまな病氣やわずらいで苦悩している人々を癒されました。イエスの評判はたちどころに広く人の知るところとなりました。そして大勢の人々が四方からイエスのところに集まってきました。ある人々は権力と力を求め、ある人々は抑圧と苦難で心打ちひしがれ希望を求めています。イエスは、彼らの心の状態をご覧になられ、どのような状況下でも幸せを感じて生活できることを教え始められました。その教えの中で、イエスは「祈り」について教えられました。

イエスは「だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。私たちの負いめをお赦してください。私たちにも、私たちに負いめのある人々を赦しました。私たちに試みに会わせないで、悪からお救いください。』」(マタイの福音書 六章九節—十三節)

イエスは、どこにでもおられる私たちの親愛なる父は私たちにとつて近寄りやすいお方ではなく、近づきやすく親しみやすいお方であることを教えました。祈りの対象はこのお方であることを教えられた後で、「あなたの御名が崇められますように」と願いなさいと教えられました。直訳は「あなたの名が聖でありますように。」つまり、「あなたの名がありとあらゆる被造物から別におかれまますように。」という意味です。セム語語源「聖」の動詞は、「特定の用途や目的のために別扱いする」という意味に由来しています。

大昔から人々は神の御名を偽って使ってきました。当時の中近東諸国では、商売の交渉の際に神の御名を使いました。天に手を挙げて、神の御名によって誓いを立てたのです。「神の最も尊い御名によって、この絨毯は五百デナリの価値がある。しかし、私の友のために、特別価格にしよう。三百デナリ。」一方、買い手は、「いやいや、その絨毯は、百デナリの価値もないが、御使いの名で、二百デナリで買おう。」売り手と買い手がこのように売買の交渉を続けました。人々は、神の尊い御名

だけでなく、特定の天使の名前や聖人の名前、さらには商人の家族のメンバーの名前さえ使いました。商売に、天上にあるすべての栄光の名前が語られたのです。商人は、売り込みを強化するために、崇められるべき神の聖なる御名を利用しました。

歴史にわたってこれと同じようなことを人々は繰り返して行ってきました。神の名において戦争を起こし、十字軍による侵略、宗教裁判、民族浄化、大虐殺を犯してきました。狂信的な熱意で人を殺傷すること、自分たちは神に大きく貢献していると考えたのです。古代も現在も、異なる信仰を持つ人々を殺害することは神の栄光であると信じられていたのです。これは宗教の教えだけにとどまらず、政治的見解の違いやライフスタイルの相違も含まれます。西洋社会では、びっくりした時、嫌味や皮肉を感じた時に、「Tommy God」と言います。今では決まり文句のように人々は口にしていきます。また神の御名を遠回しに言う婉曲名(例: O Gee, O Gosh)も使われています。神の名が、特別扱いされず、いい加減に済ませていることは実に悲しいことです。

「あなたは、あなたの神、【主】の御名を、みだりに唱えてはならない。」(出エジプト記二〇章七節)

イエスは、人々に神の御名を神聖に保つこと、つまり、悪の行為や不当な取引に使うべきでないことを始終人々に思い出させました。神の御名は、善と健全なものすべてを象徴しています。「御名が崇められますように」と願う時、私たちは、神の御名

には善と祝福のすべての道において人類を教え導く特別な目的があることを思い出すのです。

イエスは弟子たちそして聞く耳のある人々に「どこにでもおられる親愛なる父よ、御名があがめられますように」(あなたの名が万物と区別されますように)と願うように教えられました。私たち人類の親としての神の存在と神の名の神聖さは、私たちの善のためです。神の聖なる名の下で、すべての善が私たちを取り囲んでいきます。このことに私たちの心を調整するので

(次号に続く)

今月の言葉

運がいい人は「執着しない人」に多いです。

手放すことは失うことではなく、次なる素晴らしい出会いに巡り合うためのステップなんだと

ポジティブに受け止める。

手放すからこそ本当に大切なものが見えてきます。

これから先さらに良くなると信じられるからこそ

人も運も呼び込まれていくのです。



マキキ聖城基督教会 七十五年史⑬

「教会付属学校」

教会経営の学校として一九六〇年九月、幼稚園から三年生までの学級が開設され、教師はユリ高沢、ゼラルデン・リー、フロレンス渡辺、ハリエット・ホウバウの諸姉であった。学校経営の最初の二年間は財政的に非常に苦しいものであった。永野牧師のとき、英語部会員は二百人から五百人へ増加し、教会予算は一九五四年三万七千ドルから一九六一年十五万六千ドルとなった。カイルアに伝道所が設けられたが、これが現在のカイルア教会である。



「新しい方向」

チェスター・タペストラ博士は一九六三年九月、再び当教会に戻り一九六九年八月まで牧会、その後ユナイテッド・チャーチ・オブ・クライスト教団議長となり、諸教会に広く奉仕することになった。

タペストラ博士在任中、教会は地域社会に一层深い関心を抱くようになり、マキキ地方の健全な発展を目指して教育者、実業家、分野の専門家や一般住民を結び合わせるホル中部自治体を組織するに至った。

更に、地域社会に貢献するために一九六五年一月五日、タペストラ夫人を主事に、ヒュー・レン夫人を教師に迎えて、教会付属の保育園を設けた。最初の生徒数は僅か十五名であったが、翌一九六六年九月には七十五名が入園、リラ・モーガン女史が主事として就任、河野キシヨ、久保山メエ夫人等が教師として加わった。十一月には本田カーリンを教師にもうひとクラスを増設、竹原エミィや森川トルルーデイが助手を務めた。ヒュー・レン夫人は主事となって一九七八年六月まで奉職、続いて十二月まで河野夫人が代行、現在は村上須磨子夫人が主事兼教師で、他の教師は次の通り。河野キシヨ、藤本ジュン、スン・ローレル、助手ヘレン・フアリアス、教師補佐ガレス・アウ、スーザン・アエア。一九六七年八月には牧会活動の一翼としてマキキ・クリスチャン・カウンセリング・センターを開設、初代主事としてドーマン・ラム博士がパート・タイムで一九七二年まで勤務、引き続きタペストラ夫人がフルタイムの主事として、スーン・ヒュン・チュン博士、メルビン・ヒューゲン博士、堀尾メイ夫人等と無給で奉仕した。尚、一九七三年九月二十日より KAIM 局を通して、毎週木曜日午後六時半より三十分間「クリスチャン家庭の広場」を放送してきた。

現在、マージョリー・タペストラ博士は開業しており、カウンセリング・センターの働きは休止しているが、過去十余年間、キリスト信仰に基づくカウンセリングを通して大勢の人々に精神的安定と癒しをもたらした功績は大きい。一九六九年には、一九六六年より副牧師であった尾越忠夫牧師がチェスター・タペストラ博士の跡を継ぎ、レッジ・オブ・ブラッドレーが青年の働きを担当、一九七三年にはフリーリップ・マーク牧師が青年部の責任を引き受けた。過去七十五年間、教会は多数の教

育者を生み出して来たが、その氏名は左記の通りである。

△牧師

- 青木惣次郎、安里エドワード、藤田貢、福永ウオーレス、伊波ケネス、石村徳七、河野ローランド、喜友名ケネス、前田亀太郎、間宮ローレンス、永田ロナルド、尾越忠夫、大保忠義、岡本嘉吉、奥村梅太郎、重松柁太郎、城間次郎、煤孫達雄、田辺ジェームス、若井正義、山田政雄、山田成雄、吉岡熊太郎
- △副牧師 補佐
寛光頭、岩間松太郎、高橋一郎、山岡重城、今井革、木村熊次郎、楠本レイ
- △婦人伝道師
池田スミ、本山ジュリア、安原キャサリン、△宣教師

綾部ヘンリー夫妻、河島民江、喜友名ミルドレッド、本山ジュリア、安原エドワード夫妻、藤本ジュン、ブラッド・スミス夫妻

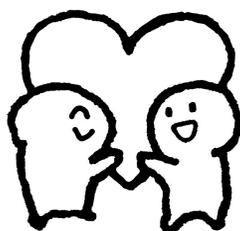


過去九年余り、祈りや聖書の学びを土台にした種々のグループ活動を通してクリスチャンの交わりを深めることに重点が置かれてきたが、小グループはさまざまな方策の中でも、神の恵みをとろつぎ又、体験する上に最も重要かつ有効なものであることが立証されている。この活動によって、会員は神と日毎に交わることがいかに大切であるかを教えている。創立七十五周年を祝う一九七九年一月尾越牧師はその説教中で次のように所信を披瀝している。

「創立七十五周年の年を迎えた今も尚、神の支配は新たであり強力です。私は今年、

私たちの上に聖霊が新しく注がれることを信じ期待します。私は神が私たちをイエス・キリストの弟子として更に深く導かれることと信じます。私は神がご自身を栄光のうちに顕されるのを見ます。神は単なる人間の計画や努力の結果を超えたことをなさるでしょう。神は私たちがその導きに従うなら、私たち一同の上にその臨在のまごうことなき証拠を残されるでしょう。私は神が私たちを宣教グループに召し集め、私たちに委ねておられる霊の賜物と呼びさまし、私たちに託された福音宣教の責任を問われているのを見ます。神の国は確かに近づいているのです！」

(完)



編集後記

今月で十七回にわたって「マキキ聖城基督教会七十五年史」をお届けしました。一九七九年の記録書です。現在マキキは、二〇二二年、創立一八八年を迎えました。創立当時の出来事は新鮮ですが、最後の尾越牧師の言葉は、今もイエス様を信じる者への変わらぬメッセージであると思えました。

マキキ聖城キリスト教会 宣教師
編集 玉寄 朋子
レイアウト 大塩 真由